

水産海洋地域研究集会

第18回 広島湾研究集会

－ 漁業の持続・発展のための物理・化学的アプローチ －

日時：2017年11月16日（木） 13:00～17:00

場所：広島市西区民文化センター

共催：一般社団法人水産海洋学会，(研)産業技術総合研究所地質調査総合センター，広島大学大学院生物圏科学研究科・流域圏環境再生プロジェクト研究センター，(研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所，広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター

コンビーナー：高橋 暁（産総研地質情報），山本民次（広大院生物圏科学），吉田勝俊（水産機構瀬戸内水研），相田 聡（広島総研水海技セ）

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会長）

13:00～13:05

趣旨説明：高橋 暁（産総研地質情報）

13:05～13:10

話題

座長：吉田勝俊（水産機構瀬戸内水研）

1. アサリ資源回復への幼生追跡実験の貢献 13:10～13:40

高橋 暁（産総研地質情報）・浜口昌巳・伊藤 篤（水産機構瀬戸内水研）

2. 産業系リサイクル材による貧酸素水塊抑制効果の数値モデル解析 13:40～14:10

山本弘規（復建調査設計(株)）・山本民次（広大院生物圏科学）・三戸勇吾（復建調査設計(株)）・浅岡 聡（神戸大院海事科学研究科）

3. 局所的施肥による養殖カキの増重および周辺環境への影響に関する評価 14:10～14:40

山本民次（広大院生物圏科学）・中原慎也・平岡喜代典（広島県環保協）・陸田秀実（広大院工学研究科）

－休憩－

14:40～15:00

座長：相田 聡（広島総研水海技セ）

4. 物理的観点から考察した有害赤潮の予測とモニタリング 15:00～15:30

青木一弘（水産機構中央水研）・鬼塚 剛（水産機構瀬戸内水研）・清水 学（水産機構）・黒田 寛（水産機構北水研）・松尾 斉（東町漁協）・吉村直晃（熊本水研）・中島広樹（鹿児島水技）・山砥稔文（長崎水試）

5. リモートセンシングによる広島湾の水質環境評価の試み 15:30～16:00

作野裕司（広大院工学研究科）

6. 漁業者と協働する漁海況モニタリング 16:00～16:30

渡慶次 力（宮崎県水試）

総合討論

座長：高橋 暁（産総研地質情報）・山本民次（広大院生物圏科学）

16:30～17:00

閉会挨拶

山本民次（広大院生物圏科学）

開催趣旨：漁業の継続・発展のためには、生物現象を支配する物理・化学的過程を理解すること、つまり場の状況を把握することが極めて重要である。最近では衛星データやGPS技術の応用拡大、あるいは化学過程を組み込んだ高度な数値モデルの開発等、海域環境を把握するための新たな手法が発展してきている。そこで、広島湾あるいは類似の閉鎖性海域で起こっている事象の理解に関し、環境の保全・修復といった観点も含め、先進的な取り組み事例について紹介することで、広島湾等閉鎖性海域の今後の漁業の継続・発展に資する議論の場としたい。